

2022 年度一般選抜試験問題

小論文

注意事項

- 1 小論文の問題冊子には、課題と下書き用紙がある。白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。
- 2 別に解答用紙1枚があり、解答はすべてこの解答用紙の指定欄に記入すること。指定欄以外への記入はすべて無効である。
- 3 解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。氏名を記入してはならない。
なお、記入した受験番号が誤っている場合や無記入の場合は、小論文の試験が無効となる。
- 4 問題冊子は持ち帰ること。
- 5 解答用紙は持ち出してはならない。
- 6 試験終了時には、解答用紙を裏返しておくこと。解答用紙の回収後、監督者の指示に従い退出すること。

課題

以下の文を読み、問いに答えなさい。

常識とは、ある社会において多数者が抱いている知識や認識、その社会で人々が例外なく持つことを期待されている知識や認識である。だとすれば、まったく常識をわきまえないのも問題であるが、「A国の常識はB国の非常識」という事態もざらにある話なので、常識が絶対であるわけでもない。

そういうこともあってか、「常識にとらわれずに良識を働かせよ！」という人々もいる。しかし、そう言う人の話をよく聴いてみると、常識と良識と言われているものの違いが、実はよく分からなかったりする。

ここで、僕は、その二つの言葉を使って考えることに反対したいわけではない。いや、むしろ、その違いがきちんと分かっているならば、「常識にとらわれずに良識を働かせよ！」という主張は的を射たものだと思っている。(中略)

次のように言えよう。良識とは、一つの常識にとらわれずに、それを疑い、それとは異なる常識をも考慮に入れ、エビデンス(証拠)や論理整合性を重視し、妥当性のある適切な知識や認識は何かを自分の頭の中で考えていく意識の働きである。各人が良識を働かせた結果たどり着く認識は、同じになることが保証されているわけではない。むしろ、各人の前提や立場の違いから多様な結論(ただし、あくまでも暫定的なもの)に至る可能性が開かれている。

出典：細谷実著『よく考えるための哲学』2011年 はるか書房より抜粋

問題 常識と良識に関するあなたの考えを400字以内で述べなさい。

下書き用紙

(下の矢印から横書きではじめること。)

5																			
10																			
15																			
20																			

(20×20)

(400字)